

# 三愛 ビュー view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344



## 「訪問看護の取り組み」

外来訪問看護室 看護師 楠 佳志子

「訪問看護」と聞くと大多数の人は、自宅で点滴、褥瘡処置、入浴介助などを受けることを想像するのではないのでしょうか？しかし精神科医療における訪問看護は少し違ってきます。精神科訪問看護は、利用者の生活の場にスタッフが訪問し、腰を据えてじっくりお話を聞きます。話の内容は、個別性を踏まえて多岐にわたりますが、その目的は共通しており「自宅(施設)においてその人が望む、その人らしい生活をするためのお手伝いをする事」です。

では具体的にどのようなことをするのか？ まず第1に通院、治療(主に服薬)が継続できるように支援、声かけをします。特に服薬は自宅で利用者が自分自身で行わなければなりません。しかし処方されたままの状態では服薬が難しい人もいらっしゃるため、1回分ずつセットしたり、飲み忘れが一目で分かるようにお薬カレンダーを用いて、正しく服薬できるように援助します。また服薬に抵抗のある人に対しては、どうして飲みたくないのか？ その理由を尋ね、改善策を一緒に考えます。その他、睡眠や食事(この2つは身体・精神状態に直結するので必ず聞きます)、清潔、金銭管理や人間(家族)関係、1日の過ごし方など生活全体の話聞き、困っていることがあれば相談を受け、必要時は適切な関係機関と連携して問題解決に向けて支援します。

訪問するスタッフは看護師、作業療法士、精神保健福祉士と様々な職種のスタッフが訪問し、それぞれの専門性を発揮して、利用者がより良い生活ができるようお手伝いします。訪問の頻度は主治医の指示で週3回から月1回と利用者によって様々ですが、当院では週1回と月2回の方が3分の2を占めています。また訪問件数実績は、訪問看護室が当院に設置された2007年(平成19年)は月平均95件でしたが、2011年(平成23年)は196件、2019年(令和元年)は284件と訪問件数は着実に増加していきました。しかし2020年(令和2年)より、新型コロナウイルス感染拡大と訪問スタッフの減少の影響

から、2021年(令和3年)は月平均が247件と少し減少しています。また利用者の平均年齢は、2017年12月では54.5歳でしたが、2022年12月現在では59.1歳と直近の5年間で約5歳上がっています。それに伴い、高血圧や糖尿病、心疾患、その他腰痛や膝痛など身体的既往歴を持つ人が増加している印象があります。心と体はお互いに強く影響し合うため、双方に目を向けた看護が今後より一層求められると感じています。利用者の男女比は4:3とやや男性が多い傾向です。

私が精神科訪問看護に携わるようになって6年がたとうとしています。未だに「これで良かったのだろうか？」「あの時の言動は間違っていなかったのか？」と迷うことが多々あります。それはやはり「その人らしさ」を心のどこかで、自分の価値観や常識というフィルター越しに見ているからかもしれません。「その人の気持ちを理解して尊重して」本当に難しいなと日々感じながら話を聞いています。ただ、難しいと思う分、新しい気づきも多くあります。「あの言葉にはこういう意味があったのか」と理解できた時、その人の「らしさ」に少し近づくことができた気がします。これからも自宅で生活している人は、継続して自宅で生活できるように、また新たに退院された人は、自宅に帰っても安心してその人らしい生活ができるように、お手伝いしていきたいと思ひます。





## 「理学療法士の取り組み」

理学療法士 合田 恭子

三船病院に就職して、2年がたとうとしています。理学療法士は、とてもやりがいのある仕事です。起きる、座る、立つ、歩くなど基本的動作の練習を重ね、自分の身体を自分で支えられるようになることで、自立した日常生活を送れるようになることを目指します。当院でも、疾患や様々な要因により臥床が続いてしまい、座位がとれない、歩けないなど日常生活に困難をきたしている患者様が多くいます。その方々に対して重力に抗して少しずつ身体を支えることや動かしていくなどの訓練をしています。また自分からは動かない、動けない方に対しては運動を促すことにより運動機会を作っていく。自分で身体を動かせない方に対しては身体を動かしていくことや、ポジショニングを行うことで少しでも身体が楽になるような環境調整を行う。介助が必要な方に対して楽な方法はないか検討するなど、各先生の指示のもと、OTスタッフや病棟スタッフと相談しながら取り組んでいます。就職当時は理学療法士がひとりしかいないというプレッシャーもあり、不安でしたが、周囲の人や環境にも恵まれたこともあり、毎日やりがいを持ちながら楽しく働くことができ、2年間もあつという間だったように思います。病棟でリハビリをしていく中で、個別に関わっていない

患者様からも声をかけられることや、近づいてきてもらえることが少し増えてきたように感じます。自分の身体に対して意識を向け、身体を動かすこと、動かせることが楽しいと思えるような患者様が少しでも増えてきてくれるように今後も日々取り組んでいきたいと思っています。また高齢化や入院生活という限られた空間の中での生活、コロナ渦の長期化なども重なり、筋力、意欲、認知の低下など身体、精神面に様々な影響がでてきてしまい、常に転倒の危険にもさらされているように感じます。健康長寿を目指して継続して運動ができるように、今より抗重力位での姿勢を10分でも長く作る、身体を動かす時間を10分多くするなど、+10の運動を心がけていきたいと思えます。三船病院の患者様が健康で長生きできるように、尽力いたしますので今後ともご協力よろしくお願いいたします。



## 「2023年 アルツハイマー型認知症の新しい治療薬の話題から…」



精神科医師 河野 禎子

人生100年時代。そんな超高齢化社会において大きな問題となっている「認知症」。2025年には約700万人が認知症に罹患していると予測されています。認知症を「治す」ことができれば…2022年から2023年にかけて、認知症の中でも最も頻度の高いアルツハイマー型の新しい治療薬の話題がマスメディアでも大きく取り上げられました。アルツハイマー型認知症は、脳内にアミロイドβ(Aβ)やタウ蛋白といった異常蛋白が蓄積し、神経細胞を破壊することが原因として考えられています。実は、物忘れのような認知症状が出現する20~30年も前から、患者さんの脳内ではすでにAβやタウ蛋白の蓄積が少しずつ始まっているのです。

今年の年明け、このAβに対する抗体薬(結合して除去する薬)の一つとして、レカネマブが米国FDAで迅速承認されました。簡単に言うと、この薬は脳に溜まったAβを取り除くことで、神経細胞が破壊されるのを防ぐというものです。ただし、一旦破壊された神経細胞の再生はできないため、軽度認知障害(MCI)や軽度認知症といった認知症症状が完成していない早期の段階での投与が重要となってきます。

認知症治療薬と言えば、日本では現在アリセプトなど4剤が使用されていますが、どれも根本的な治療薬とはいえません。それではこのレカネマブの効果はどうなのでしょう?…プラセボとの比較で認知機能の低下速度を約27%遅らせたとのことでした。

まだ夢の新薬とはまでは言えませんが、これまでの新薬とは違い、進行を明確に抑制できており、認知症の予防効果への期待も持てます。今後、早期からの使用により、健康な時間を年単位で伸ばせる可能性も出てくるかもしれません。一方、現時点ではまだ課題も多く、診断精度や高額な薬価の問題、重篤な副作用の報告もあるなど安全性の問題もあります。

日本での承認も待たれる中、実用化にはもう少し時間がかかりそうですが、認知症を「治す」時代に少しずつ近づいているのかもしれません。

## 皆さまへのお知らせ

### リモート面会について

三船病院では新型コロナウイルス感染予防のため、面会を制限させていただいております。現在は四国4県と岡山県在住のご家族を対象に、専用タブレットを使ってビデオ電話で面会を実施しております。今後の感染の状況により面会可能な条件等も変化する可能性がありますのでお申し込みやご質問は、電話もしくは面会受付窓口へ直接お問い合わせください。

当面の間、ご不便をおかけしますが、ご理解いただきご協力をお願いいたします。

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
午前	2病棟	7病棟	6病棟	1病棟	3病棟	7病棟	1・2・3病棟
午後	3病棟	8病棟	2病棟	8病棟	6病棟	1病棟	6・7・8病棟

## 三船病院 委員会活動紹介

### 「 衛生管理委員会 」

委員長 看護副部長 三浦 幸子

労働者が50人以上になる事業所は、働く人の健康障害、労働災害を防止することや健康の保持増進・健康教育を目的に、衛生委員会を設置するよう義務づけられています。

委員会のメンバーとして産業医がおり、医療的な観点から職場環境や労働の災害対策に関するアドバイスを行い、衛生管理者は働きやすい職場作りや健康保持増進に務めています。活動としては、5月は健康診断の実施、7月は熱中症の予防対策、11月はインフルエンザワクチン接種の実施や、現在も流行している新型コロナウイルスの感染症の予防対策にも関わっています。また毎年ストレスチェックを実施し自らストレス状況に気づき、メンタルヘルス不調を

未然に防ぐことができるように希望者は産業医と面談をしてもらっています。

三船病院には20代の職員もたくさんいますが、全体的に高齢化になりつつあります。職員自身に健康に関心を持ってもらい、生活習慣病予防検診の対象者には受診してもらえるように積極的に働きかけています。毎年受診する人数が少しずつですが増加傾向にあります。働く職員の心身が健康でないと、仕事の効率やサービスの提供も十分でなくなるため、少しでも健康で働いてもらえるよう支援していきたいと思っております。

#### 《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第2金曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)

## 【介護老人保健施設 福寿荘】



### 「年末年始の面会について」

支援相談員 安藤 由佳

現在、福寿荘では新型コロナウイルス感染対策のため、面会を予約制にてガラス越しで実施しています。年末年始は、県内外からご家族や親族が来て下さり、利用者とガラス戸を通してですが面会していただきました。

全国的に移動規制が解除されていることから、久しぶりに香川に帰省された方も多く、利用者の近況を職員から直接お伝え出来た方も多くいらっしゃいました。コロナが始まって3年程の間に結婚や出産でご家族が増えた方や進学・就職にて生活が変わった方など、来られるご家族皆さまも大きな変化があり、利用者には会えたことの喜びに加えて、新しい家族と挨拶をされたり、新しい生活を応援したりする姿もみられました。

久しぶりに会うご家族から「私のこと覚えているかな」と不安の声もありましたが、みなさん顔を見たり、名前を聞いたりすると思い出されていました。中には社会人になったお孫さんを見て「そんなに綺麗になって、誰かわからなかった。もう働いているなんて」と記憶していたお孫さんの姿とのギャップにとっても驚いてじっくりと見つめる方や初ひ孫に会えたことで「こんなにうれしいことはない。これでまた長生きが出来る。また会いに来てよ」と涙される方もいらっしゃいました。

まだまだ感染が続いている中で、直接会っていただくことが難しい状況ですが、みなさんの笑顔を見るとご家族と会える機会ができる限り作っていきたく強く思いました。利用者と家族の皆様が並んで1枚の写真におさめられる日が早く来るように願うばかりです。



## 【三愛会コミュニティセンター】

### 「中讃西部地域自立支援協議会 精神保健福祉部会の活動について」

相談支援事業所はなぞの 精神保健福祉士 山田 智子

中讃西部地域自立支援協議会(※)では、令和元年度から精神保健福祉部会を設置して開催しています。設置根拠は、国の基本方針である「地域の保健福祉医療体制の基盤整備」に基づいて、各市町村に「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築」に向けて協議する場の設置が求められたことです。本部会の構成機関は、5市町行政福祉課、中讃保健福祉事務所、5相談支援事業所、4精神科医療機関としており、はなぞのは事務局を担当しています。これらの機関に加えて令和元年度は5市町地域包括支援センターと令和4年度は5市町社会福祉協議会と共に活動してきました。(2、3年度はコロナ渦で定例会休会)。部会目的は「安心して地域生活を営むために身近な生活圏で当事者や専門職、地域住民らが“皆で協力して支えあえる地域に”という意識を持ってスムーズな連携が図っていけるような地域ネットワークづくりを目指す」としています。

現在の活動は、市町ごとに民生児童委員や当事者の方へ、精神障がいゆえの地域生活の困りごとや対応の困りごと、地域支援で足りないと思われること、またその地域ならではの強みなどをインタビューして回っています。地域の実情をアセスメントする他、緩やかに顔見知りを広げながら今後の連携や協働に繋げていくことも目的のひとつです。はなぞのとしては日々の業務に忙殺されながらも地域づくりも地道におこなっていきたくと思います。※中讃西部圏域とは、丸亀市、善通寺市、多度津町、琴平町、まんのう町です。

### 《編集後記》

暦の上では春とはいえ、まだまだ寒い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年はコロナ感染症とともにインフルエンザのダブル感染も多々みられなお一層の感染対策が必至となっております。皆様も体調に異変を感じたら早めに受診しましょう。

(三船病院相談室 MHSW)